

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人クリニック暖
事業所名	グループホームファミリー桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑寺に移転して3年たち、地域の皆様にも大変お世話になっております。運営推進会議などを通して地域の方々と一緒に勉強会を行うなど、交流の機会をつくり、地域でのグループホームの役割としていきたいと考えています。地域の行事にも参加させていただき、ボランティアさんとの交流も積極的に行っており閉鎖的な環境にならない努力も行っています。家族様の日ごろの面会も多く、年に3回、行事に合わせ家族会を開催することで、家族様おしとの交流もあり、意向を伺う機会となっています。母体となる3Fクリニック暖との医療連携で、急変時も迅速な対応がとれます。日常の健康管理から、看取りまで、医療面でも安心して安全な生活を送っていただけるように体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三本柱の理念は母体医療機関の在宅療養支援診療の医師が開設当初に考えたものである。
①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援を軸に、事業所を立ち上げた時と変わらず“初心を忘れず”進めていることは自慢でき讃えられることである。ご家族は度々訪れ、利用者は元より職員の信頼も厚く、家族会などの行事や外出支援での協力は大きく交流の深まりがみられる。日々のバイタルサイン、食事、排泄や体重の変化に加え、定期的な往診による健康管理が行われている。看取りを理念と重ねて、最期の場所としての役割を果たす責任感ある対応をとっている。職員に死生観教育を実施するなど、看取りの理解を深めることに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームファミリー桑原
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	谷本貴子
評価完了日	平成 28 年 11 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援 という理念を掲げ、常に見える場所に掲示し、周知している。毎朝の朝礼、申し送りや、カンファレンスでは、理念に沿った話し合いを行い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 理念とは別にユニットごとに毎月目標を掲げ努力しているが、達成度は職員一人ひとり異なるため、1月毎に目標を変えるのではなく、職員全員が達成できるまで目標は変えない方向で検討している。また、職員がさらにステップアップできるように理念にもある地域密着型、人権、尊厳、安心できる環境を基本に、常に初心に戻る気持ちで業務を遂行するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し、交流を持つ機会としている。また、運営推進会議では、地域の方も声掛けし認知症や、介護実技の講習を開催して、地域の役割となるように努力している。日常の買い物や、行事などの際も積極的に地域の店や施設を利用して頂いている。地域の方のボランティアの協力もある。</p> <p>(外部評価) 数年前に移転してからも、地域に根ざした事業所として地域住民から愛されるよう努力を重ねている。自治会に入会し回覧板で行事を把握することができるため、福祉センターや小学校の夏祭り、サマーカーニバル等に積極的に参加し顔見知りも増えている。小学生が社会科事業見学に訪れたり、公民館からテーブルや椅子など借りることもあり地域との連携も取れている。利用者は駄菓子屋やパン屋に買い物に行くのが楽しみで、馴染客になっている。また、事業所を会場として提供し認知症などをテーマにした勉強会を開催し、地域住民から好評を得ているため、管理者は今後も継続したいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の中で、地域や、家族に向けての勉強会を開催し、地域の中での事業所の役割となれればと考えている。今年度は、在宅介護研修センターの出前講座を利用し、介護技術を学ぶ機会を作った。これからも、事業所ならではの地域への貢献を積極的に考えていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、地域の方々の協力もあり、多方面の方々に参加して頂いて、事業所の状況報告や取り組み、地域、行政との情報交換等が出来ている。頂いた情報や意見は報告書を作成し、参加出来なかった職員にも周知している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の出席者の都合を聞き、出席しやすい日程を調整し開催しており、同時に家族や地域の声を取り入れた「困っている介護方法」「糖尿病について」などの勉強会や車いすの使い方の実技や認知症サポーターの学習も取り入れているほか、外部評価や事業所行事の実施報告も行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、事業所の状況報告を行って情報提供や助言を頂いている。また、年に2回の消防避難訓練にも参加して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市生活総務福祉課の担当者が事業所の近況等把握のため来所している。地域包括支援センターとは、研修の案内や事業所の空き状況等の情報交換を行うなど連携が取れており、持ちつ持たれつの関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束や、虐待の研修を受け職員が拘束の弊害を十分理解できるようカンファレンスで、資料とともに学んだことを共有している。玄関に「拘束ゼロ宣言」と掲示し、まずしないと決めて対応方法を話し合っている。また、定期的に勉強会も行っていきたい。</p> <p>(外部評価) 家族から利用者が安心できるようにしてほしいとの要望等もあり、安全確保のため玄関は夜間のみ施錠しているが、日中は自由に出入りすることができる。安眠薬については医師の指示のもと投薬を行っている。管理者は職員が事業所の基本である「拘束ゼロ宣言」が遂行できるよう、身体拘束をしないケアの研修を定期的で開催するよう考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加する機会を持ち、持ち帰って、職員で勉強できる機会を作り、フロアやトイレなどに不適切なケアについての指標を張っており、常に意識出来るようにしている。また、外部からの目を入れる事で閉鎖的にならない環境作りにも努めている。職員のストレスが溜まらないような無理のない労働環境作りにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見人制度や日常生活自立支援制度を利用されている方がおられ、利用することのメリットを身近に感じる事が出来ている。この制度がある事を必要とされている方に伝えられるように、勉強の機会を継続して持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や解約時には十分時間をとって重要事項説明書や契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けパンフレットにも掲示している。改定等で利用料変更の際にも、書面にて説明させて頂いたあと、相談窓口を掲載している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居年数の長い方も多く近隣からの利用者様も多く家族様の面会も多い。家族会を昨年度から作り、家族様同士も挨拶を交わすなど、顔見知りとなり交流を持てていることもあり、家族様が訪ねてきやすいアットホームな雰囲気作りに努めている。家族会を年に3回、行事に合わせ計画しており、家族様が中心となり、意見や意向など自由に表す機会として有効に機能するようにし、運営に反映していきたいと考えている。 (外部評価) 家族会を開催することにより、利用者や家族、職員が一堂に会し会話ができるので、よりよい関係づくりができています。遠方の家族には電話やメール、手紙で定期的連絡を取り合い意見や要望等は把握している。毎月の請求書と一緒に写真やホーム便りを同封の上送付し、家族から感謝の言葉をもらうなど職員の励みになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回のカンファレンスでは職員全員で運営に関する話し合いも行っており、そこで出てきた意見や提案は代表者も参加する管理者会議で取り上げ、話し合い運営に反映させている。また、朝の朝礼でも共通理念のもと、職員の意見を発表する時間を設けている。管理者やリーダーはリーダー研修会を受け、職員間の関係作りの向上にもなった。</p> <p>(外部評価) 職員は管理者や代表である医師のことを何でも気軽に聞きやすい存在と感じており、相談等は気兼ねなくすることができる。職員はスキルアップのために研修会に参加する機会も多く、向上心の高い事業所といえる。管理者は職員のことをよく把握しており、シフトや休暇等の要望も聞き入れてくれるなどの配慮もあり、管理者を中心に職員同士の関係も良好で働きやすい職場環境となっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は月1回の管理者会議を開催し職員の状況や職場環境の状況を把握し働きやすい環境を提供する努力をしている。また、資格所得や、研修参加の体制を整え、意欲を持って仕事に取り組める環境を整えている。子育てや、介護などしながらも働きやすい環境となるように勤務体制や、勤務時間など相談に乗っていききたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように計画し、勤務時間内に参加できるように配慮している。また、自ら学べるように、研修案内を見える所に貼り出し、参加の機会を提供している。資格取得に向けて講習中の職員には、勤務を調整し協力体制を作っている。運営推進会議での勉強会や、施設内研修も積極的に行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修会などに参加し、他の事業所との交流の機会としている。介護労働安定センター主催のグループ会議などにも参加させて頂いている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 可能な限り入居者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見ていただき、納得して入居して頂けるように関係作りに努めている。しっかりとお話を伺いながら関係機関との情報交換も行いご本人の状態把握に努め、ご本人の意向や不安等を取り除けるように援助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作っている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。ボランティアを含め、多業種との連携等も出来るように情報収集を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様と職員は生活を共にしながら年配者として入居者様より、生きる知恵や経験を教えて頂ける機会を作れるように努めている。職員が入居者様の出来る力を見つけ出す事ができるような場面を積極的に作り出し、自然な形で年配者を慕い、敬う気持ちが持てるような施設にしていきたい	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時間を特に決めずに対応し、家族様が訪ねて来やすい環境を作り、行事や、外出などには家族様にも積極的に関わっていただけるように働きかけている。ケアプランの中に家族様の面会を利用したものもあり、また、看取りケアでは家族さまの役協力も得ながら、入居者様を支えさせて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣の入居者様が増えており、家族様の協力のもとに、なじみの関係の継続が出来ている。また、気軽に面会に来ていただけるように、気持ちの良い対応出来るように職員は努めている。個別に本人の暮らしていた場所に出かけたり、イベントに参加したりできた。	
			(外部評価) 利用者の地元の「ホテル祭り」への参加、馴染みの美容室へ出向いたり、自宅に帰ったり、墓参りや外食など、家族の協力のもと、今まで培ってきた人間関係等が断ち切れることなく継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者と一緒に過ごす時間をもち、入居者さん同士の関わりを見守るようにしている。2ユニット間の入居者の交流もあり、支え合う関係作りが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮しながら、必要な場合は退所後も必要な情報を提供できるように援助している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから、本人家族様のお話をしっかり聴き取り、日々のケアでの気づきも記録に残すことで、職員間での情報の共有をしている。カンファレンスで全職員で話し合い、ケアに生かせるようにしている。 (外部評価) 利用者をよく観察し傾聴する中で発言や表情など気づいたことを書面で記録に残しており、サービスの向上に役立っている。利用者に「○○してください」ではなく、「○○してみませんか？」と問いかけ自己決定できるよう配慮している。利用者との会話から希望を汲み取り意向に沿えるよう努めている。また、座席により利用者の食欲が増進したり、会話が弾んだりすることがあるので、席配置は利用者同士の相性等を十分配慮し決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報頂き記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や心身の状態の変化に気付けるように、バイタルチェック表も利用しながら、一人一人の現状の把握に努めている。月に1度のカンファレンスで、職員全員で情報を集め出来る事、出来ない事、様子や変化などの気づきを共有しケアに取り入れて。家族様とも共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族さまの面会時やプラン変更時には家族様とも話し合い、また、主治医や、関係者からも情報を頂きながら月に1回の職員のカンファレンスで、個々の状況をモニタリングし、担当者が計画を立案している。担当者が他のスタッフからの気づきや課題を聞き取り話し合い、プランに活かせるように、毎月評価を行い見直しも行っている	
			(外部評価) 家族からの要望や主治医の意見を盛り込むなど介護計画作成に生かしている。「職員として何が利用者に見えるのか？」常に自問自答しながら関わっている。月1回カンファレンスを行い、利用者の状態に応じたケアができているか職員全員で検証しており、状態に変化がある場合などはその都度見直しているが、基本は6か月に1回見直すようにしており、家族には内容についてきちんと説明し了承を得ており感謝の言葉をもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも言葉や表情動作など日常の様子が解るような記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期発見につながる事も多い。入居者様の申し送りノートも利用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応できるように情報を収集し、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などを行い、他事業所の利用の取り組みも行った。また、事業所の役割として、認知症の勉強会などを地域の方々にも提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受入れ、地位との交流にも努めている。現在、踊り、ギター、ハーモニカ、傾聴ボランティア、などのボランティアさんが来て下さっている。また、移動販売や、地域の店などを利用し交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニック暖と併設されており、迅速に適切な医療が受けら れる体制が整っているため状態変化にも対応できている。ま た、専門医や救急病院への受診も医療連携を結んでいるクリ ニック暖からの医療情報があることから、スムーズに対応で きている。 (外部評価) 母体法人が医療機関で緊急時の対応も可能なため、利用者 と家族は安心して生活することができており、主治医として 利用者一人ひとりの顔を見ながら声かけをし診察している。 眼科等他科受診の時は、主治医の紹介状を持参し適切な医療 を受けている。歯科の往診もあり口腔ケアを取り入れ、利用 者は週1回歯科衛生士の指導を受けている。日頃からインフ ルエンザ等感染症予防にも心がけており、手洗いやうがい の励行にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携を取っている事 もあり、入居者様も医師や看護師とも日頃から交流がある。 日状の様子を観ていただいていることから、小さな変化も 伝えやすく、相談しやすい体制を作っていただいている。 家族様からも安心だとの評価を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療 できるように、また、できるだけ早期に退 院できるように、病院関係者との情報交 換や相談に努めている。または、そうし た場合に備えて病院関係者との関係づ くりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関との話し合いの場には家族様と共 にできるだけ職員も立ち会うようにしており情報提供 できるようにしている。また、早期退院に向け医療 連携を結んでいる医療機関に情報提供できるように、 また、事業所に戻ってからかかりつけ医との 関係が取れる様に、援助している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し 合いを行い、事業所でできることを十分 に説明しながら方針を共有し、地域の 関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる	(自己評価) 「重度化した場合における医療体制に係る指針」 を作成し入居時に入居者様や家族様に説明し見 取りまで対応出来る事を説明させて頂いてい る。また入居時点での希望を確認させて 頂いており、グループホームとしての機能 や、協力機関や、地域、ボランティアな どの機能も説明させて頂いている。 (外部評価) 看取りの指針が整備されており、指針をも とに職員間で十分話し合っている。法人 医師が24時間対応可能で、事業所に 看護師もいるため心強い。看取り経験 のある職員の感想は、日々不安は募 っていたが、医師と看護師の存在が 大きく連携も取れ達成感があったよ うである。管理者をはじめ職員全 員が日々勉強しながら、スキルア ップに努めサービス向上につな げたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 入居者様の急変時にはマニュアルを作成し、クリニック暖へ連絡をする事と成っている。また、その他の緊急時にもマニュアル作成し、緊急連絡網を作成している。また、クリニック暖より緊急時の対応、処置等指示を受けている。ノロの対応についての勉強会を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) それぞれにマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練の際には、地震や水害等の話合いや訓練も行っている。また、そのうちの1回は消防署にも立ち会って頂いている夜間想定消防避難訓練と救急蘇生法も年に1回は行うように計画し、消防避難訓練は運営推進会議とし、地域の方々や家族様、防災士さんも参加して下さい。 (外部評価) 運営推進会議と同時に避難訓練を行っており、地元の消防団員も参加するなど地域との連携も取れている。夜間は各ユニット一人の職員の対応になるため、利用者全員の避難には不安を感じており、夜間時の対応について協議を進めたいと考えている。水や米、缶詰、レトルト食品など備蓄し賞味期限が過ぎないように留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限りおこなっている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、援助している。 (外部評価) 利用者を人生の大先輩として敬い、一人の人間として尊重するよう、管理者をはじめ職員全員が心がけている。利用者には自信を持ってもらい、残存能力を生かした生活をしてほしいと願っており、日々馴れ合いにならないよう声かけや呼び名等にも注意を払っている。居室に入る時には必ずノックや声かけをしたり、食後の口のまわりや着衣など、特に重度化の利用者には配慮するなど支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 長期入居者も多く、これまでの生活を支援する中で、希望を聞く、思いを窺い知る働きかけを行い、日常のコミュニケーションを通し可能な限り自己決定の声を引き出せるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床や就寝、休息などの入居者様の個々の生活のリズムが優先できるように工夫しながら支援している。休息や外出などの希望も職員やホーム側の事情を優先することのない様、出来るだけ希望に沿うように援助している。予定や日課を変更しなければならない時は、しっかり事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事等を取り入れる事によって身だしなみに気を付け、おしゃれしたい気持ちになるような機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事が一層楽しいものとなるように食べたいものを聞いたり、食材を見たり触れたりする機会を作っている。旬な野菜や、食材を取り入れ、調理の様子も見れる配置なので、音や匂いからも食べる意欲につながっている。個々の状態に合わせて可能な限り、食事の準備や配膳等も一緒に行って頂いている。 (外部評価) ちらし寿司や赤飯、しょうゆ餅など利用者が懐かしく思うものに配慮し、嗜好や季節感を大切に考え、食事担当職員が献立を立て調理している。職員は利用者と同じメニューを食べしており、利用者を見守り楽しそうに会話をしている。もやしの根切りやじゃが芋の皮むき、下膳、テーブル拭きなど利用者ができることをできる時に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分のチェック表を利用しながら、一日のトータル摂取量が分かるようにしている。また、食事の形体も状態に合わせ、刻みやミキサー、プリン状等形体を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助させて頂きながら、口腔ケアを行っている。また、歯科医との関係で、必要な場合の往診や口腔ケアへ繋いで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態に合わせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らずに気持ち良く排泄できるように、食事や運動等にも工夫している。 (外部評価) お茶やヤクルト、ヨーグルト等食物繊維を多く含むものを心がけて摂取するなど、薬には頼らない方法でスムーズに排泄できるよう支援している。立ったり座ったり、またラジオ体操やボール風船バレーなど楽しみながら運動し排泄を促すなど、利用者が便秘にならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や、水分量、適度な運動等で、便秘にならない工夫を取りいれている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が、楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、工夫し援助している。 (外部評価) 入浴は週3回を目安とし、利用者は入浴を面倒に思ったり「風邪をひいている」と言って拒むこともあるが、職員の上手な声かけなどの工夫により気持ち良くくつろいだ気分で入浴を楽しんでいる。時間帯や入浴時間、温度など利用者一人ひとりに合わせた支援のほか、バイタルチェックは必ず入浴前に行うなど安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け、個々に合わせ運動や散歩なども取り入れている。また、日中も好きな場所で、ゆっくり出来るように、椅子や、テーブルの配置を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時にはご本人の分かり易く主治医からも説明いただいている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が同席させて頂き、情報提供を行い、また、説明を聞くようにしている。処方管理は、調剤薬局に任せているが、職員も変更等把握できるように、薬剤師さんの協力も得ながら、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などご本人や家族様などから伺い、趣味や得意な事などを生活の中に取り入れ、出来る事は継続できるように支援している。レクリエーションやクラブ活動として職員も一緒に楽しみながら行っている。外出の機会や各ユニットの交流、ボランティアの訪問等、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力を得ながら行っている。実家に帰ったり、お墓参りに帰ったりとそれぞれの希望に合わせて、援助している。日常の散歩や買い物なども取りいれている。	
			(外部評価) 一日中事業所で過ごすことがないよう散歩や花見、買い物など外出する機会を設けたり、重度の利用者は松山城などの景色が見える屋上に上がり気分転換を図っている。道の駅やスーパーへの買い物、児童館や福祉センター、繁多寺などにドライブするなど、家族の協力も得て外出支援ができており、利用者は外出を心から喜び楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際には、買い物の機会も作り、入居者様にお財布を持っていただきお金を使う機会を作っている。家族様と相談しながら、おこずかい程度を個人で管理しておられる方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分は援助しながら電話や、手紙のやり取りも支援している。年賀状や季節に合わせて挨拶状なども援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間には季節の花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように配慮している。ベランダからは向かいの山が見え、日の出やお月見等には絶好の場所となっている。</p> <p>(外部評価) ベランダからは美しい月を眺めることができ、窓辺では利用者が日向ぼっこできるようになっている。共用スペースにはソファが用意され、ゆっくりくつろぐことができる。床には物品を置かないよう配慮され、掃除は業者に委託し、事業所内はきれいで清潔感があり居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアーは自由に行き来出来るようになっており、各部屋や全体にもつながっており、自由に行き来が出来る。また、ソファなどでは、気の合う入居者様と共に過ごす事が出来る。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人個室では、気に入ったように家具なども配置して頂き、落ち着ける場所となるように家族の写真や、思い出の写真を飾ったり、また、家具や日用品などはなじみの家具を持ち込んで頂くなどして、今までの生活から継続性のある暮らしが出来るように援助している。</p> <p>(外部評価) 居室は、いつ誰が来てもいいようにきれいに掃除が行き届き整理整頓されており、ずっと居たい気持ちになる。家族との温かい会話が弾むようテーブルと椅子が配置されている。また、家具が倒れないような地震対策も家族の協力により施されており、安心して過ごすことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すり、表札、表示など利用してわかりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品の利用など安全に生活できるように援助している。また、家具の配置などにも配慮し、安全に生活が出来るように援助している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人クリニック暖
事業所名	グループホームファミリー桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑寺に移転して3年たち、地域の皆様にも大変お世話になっております。運営推進会議などを通して地域の方々と一緒に勉強会を行うなど、交流の機会をつくり、地域でのグループホームの役割としていきたいと考えています。地域の行事にも参加させていただき、ボランティアさんとの交流も積極的に行っており閉鎖的な環境にならない努力も行っています。家族様の日ごろの面会も多く、年に3回、行事に合わせ家族会を開催することで、家族様ごとの交流もあり、意向を伺う機会となっています。母体となる3Fクリニック暖との医療連携で、急変時も迅速な対応がとれます。日常の健康管理から、看取りまで、医療面でも安心して安全な生活を送っていただけるように体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三本柱の理念は母体医療機関の在宅療養支援診療の医師が開設当初に考えたものである。①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援を軸に、事業所を立ち上げた時と変わらず“初心を忘れず”進めていることは自慢でき讃えられることである。ご家族は度々訪れ、利用者は元より職員の信頼も厚く、家族会などの行事や外出支援での協力は大きく交流の深まりがみられる。日々のバイタルサイン、食事、排泄や体重の変化に加え、定期的な往診による健康管理が行われている。看取りを理念と重ねて、最期の場所としての役割を果たす責任感ある対応をとっている。職員に死生観教育を実施するなど、看取りの理解を深めることに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミリー桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日 平成 28 年 11 月 3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ①安心して生活できる環境の提供②個人の尊重と自立支援③地域交流の支援 という理念を掲げ、常に見える場所に掲示し、周知している。毎朝の朝礼、申し送りや、カンファレンスでは、理念に沿った話し合いを行い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 理念とは別にユニットごとに毎月目標を掲げ努力しているが、達成度は職員一人ひとり異なるため、1月毎に目標を変えるのではなく、職員全員が達成できるまで目標は変えない方向で検討している。また、職員がさらにステップアップできるよう理念にもある地域密着型、人権、尊厳、安心できる環境を基本に、常に初心に戻る気持ちで業務を遂行するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し、交流を持つ機会としている。また、運営推進会議では、地域の方も声掛けし認知症や、介護実技の講習を開催して、地域の役割となるように努力している。日常の買い物や、行事などの際も積極的に地域の店や施設を利用して頂いている。地域の方のボランティアの協力もある。</p> <p>(外部評価) 数年前に移転してからも、地域に根ざした事業所として地域住民から愛されるよう努力を重ねている。自治会に入会し回覧板で行事を把握することができるため、福祉センターや小学校の夏祭り、サマーカーニバル等に積極的に参加し顔見知りも増えている。小学生が社会科事業見学に訪れたり、公民館からテーブルや椅子など借りることもあり地域との連携も取れている。利用者は駄菓子屋やパン屋に買い物に行くのが楽しみで、馴染客になっている。また、事業所を会場として提供し認知症などをテーマにした勉強会を開催し、地域住民から好評を得ているため、管理者は今後も継続したいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の中で、地域や、家族に向けての勉強会を開催し、地域の中での事業所の役割となればと考えている。今年度は、在宅介護研修センターの出前講座を利用し、介護技術を学ぶ機会を作った。これからも、事業所ならではの地域への貢献を積極的に考えていきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、地域の方々の協力もあり、多方面の方々に参加して頂いて、事業所の状況報告や取り組み、地域、行政との情報交換等が出来ている。頂いた情報や意見は報告書を作成し、参加出来なかった職員にも周知している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の出席者の都合を聞き、出席しやすい日程を調整し開催しており、同時に家族や地域の声を取り入れた「困っている介護方法」「糖尿病について」などの勉強会や車いすの使い方の実技や認知症サポーターの学習も取り入れているほか、外部評価や事業所行事の実施報告も行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を利用し、事業所の状況報告を行って情報提供や助言を頂いている。また、年に2回の消防避難訓練にも参加して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市生活総務福祉課の担当者が事業所の近況等把握のため来所している。地域包括支援センターとは、研修の案内や事業所の空き状況等の情報交換を行うなど連携が取れており、持ちつ持たれつの関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束や、虐待の研修を受け職員が拘束の弊害を十分理解できるようカンファレンスで、資料とともに学んだことを共有している。玄関に「拘束ゼロ宣言」と掲示し、まずしないと決めて対応方法を話し合っている。また、定期的に勉強会も行っている。</p> <p>(外部評価) 家族から利用者が安心できるようにしてほしいとの要望等もあり、安全確保のため玄関は夜間のみ施錠しているが、日中は自由に入ることができる。安眠薬については医師の指示のもと投薬を行っている。管理者は職員が事業所の基本である「拘束ゼロ宣言」が遂行できるよう、身体拘束をしないケアの研修を定期的に開催するよう考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加する機会を持ち、持ち帰って、職員で勉強できる機会を作り、フロアやトイレなどに不適切なケアについての指標を張っており、常に意識出来るようにしている。また、外部からの目を入れる事で閉鎖的にならない環境作りにも努めている。職員のストレスが溜まらないような無理のない労働環境作りにも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見人制度や日常生活自立支援制度を利用されている方がおられ、利用することのメリットを身近に感じる事が出来る。この制度がある事を必要とされている方に伝えられるように、勉強の機会を継続して持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や解約時には十分時間をとって重要事項説明書や契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けパンフレットにも掲示している。改定等で利用料変更の際にも、書面にて説明させて頂いたあと、相談窓口を掲載している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居年数の長い方も多く近隣からの利用者様也多いく家族様の面会も多い。家族会を昨年度から作り、家族様同士も挨拶を交わすなど、顔見知りとなり交流を持てていることもあり、家族様が訪ねてきやすいアットホームな雰囲気作りに努めている。家族会を年に3回、行事に合わせ計画しており、家族様が中心となり、意見や意向など自由に表す機会として有効に機能するようにし、運営に反映していきたいと考えている。 (外部評価) 家族会を開催することにより、利用者や家族、職員が一堂に会し会話ができるので、よりよい関係づくりができています。遠方の家族には電話やメール、手紙で定期的に連絡を取り合い意見や要望等は把握している。毎月の請求書と一緒に写真やホーム便りを同封の上送付し、家族から感謝の言葉をもらうなど職員の励みになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のカンファレンスでは職員全員で運営に関する話し合いも行っており、そこで出てきた意見や提案は代表者も参加する管理者会議で取り上げ、話し合い運営に反映させている。また、朝の朝礼でも共通理念のもと、職員の意見を発表する時間を設けている。管理者やリーダーはリーダー研修会を受け、職員間の関係作りの向上にもなった。 (外部評価) 職員は管理者や代表である医師のことを何でも気軽に聞きやすい存在と感じており、相談等は気兼ねなくすることができる。職員はスキルアップのために研修会に参加する機会が多く、向上心の高い事業所といえる。管理者は職員のことをよく把握しており、シフトや休暇等の要望も聞き入れてくれるなどの配慮もあり、管理者を中心に職員同士の関係も良好で働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月1回の管理者会議を開催し職員の状況や職場環境の状況を把握し働きやすい環境を提供する努力をしている。また、資格所得や、研修参加の体制を整え、意欲を持って仕事に取り組める環境を整えている。子育てや、介護などしながらも働きやすい環境となるように勤務体制や、勤務時間など相談に乗っていきたい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように計画し、勤務時間内に参加できるように配慮している。また、自ら学べるように、研修案内を見える所に貼り出し、参加の機会を提供している。資格取得に向けて講習中の職員には、勤務を調整し協力体制を作っている。運営推進会議での勉強会や、施設内研修も積極的に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修会などに参加し、他の事業所との交流の機会としている。介護労働安定センター主催のグループ会議などにも参加させて頂いている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な限り入居者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見ていただき、納得して入居して頂けるように関係作りに努めている。しっかりとお話を伺いながら関係機関との情報交換も行いご本人の状態把握に努め、ご本人の意向や不安等を取り除けるように援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作るようにしている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。ボランティアを含め、多業種との連携等も出来るように情報収集を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者様と職員は生活を共にしながら年配者として入居者様より、生きる知恵や経験を教えて頂ける機会を作れるように努めている。職員が入居者様の出来る力を見つけ出す事ができるような場面を積極的に作り出し、自然な形で年配者を慕い、敬う気持ちが持てるような施設にしていきたい	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時間を特に決めずに対応し、家族様が訪ねて来やすい環境を作り、行事や、外出などには家族様にも積極的に関わっていただけるように働きかけている。ケアプランの中に家族様の面会を利用したものもあり、また、看取りケアでは家族さまの役協力も得ながら、入居者様を支えさせて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣の入居者様が増えており、家族様の協力のもとに、なじみの関係の継続が出来ている。また、気軽に面会に来ていただけるように、気持ちの良い対応出来るように職員は努めている。個別に本人の暮らしていた場所に出かけたり、イベントに参加したりできた。 (外部評価) 利用者の地元の「ホテル祭り」への参加、馴染みの美容室へ出向いたり、自宅に帰ったり、墓参りや外食など、家族の協力のもと、今まで培ってきた人間関係等が断ち切れることなく継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者とはゆっくりかかわる時間を持ち、入居者さん同士の関わりを見守るようにしている。2ユニット間の入居者の交流もあり、支え合う関係作りが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮しながら、必要な場合は退所後も必要な情報を提供できるように援助している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから、本人家族様のお話をしっかり聴き取り、日々のケアでの気づきも記録に残すことで、職員間での情報の共有をしている。カンファレンスで全職員で話し合い、ケアに生かせるようにしている。 (外部評価) 利用者をよく観察し傾聴する中で発言や表情など気づいたことを書面で記録に残しており、サービスの向上に役立っている。利用者には「○○してください」ではなく、「○○してみませんか？」と問いかけ自己決定できるよう配慮している。利用者との会話から希望を汲み取り意向に沿えるよう努めている。また、座席により利用者の食欲が増進したり、会話が弾んだりすることがあるので、席配置は利用者同士の相性等を十分配慮し決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報頂き記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や心身の状態の変化に気付けるように、バイタルチェック表も利用しながら、一人一人の現状の把握に努めている。月に1度のカンファレンスで、職員全員で情報を集め出来る事、出来ない事、様子や変化などの気づきを共有しケアに取り入れて。家族様とも共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族さまの面会時やプラン変更時には家族様とも話し合い、また、主治医や、関係者からも情報を頂きながら月に1回の職員のカンファレンスで、個々の状況をモニタリングし、担当者が計画を立案している。担当が他のスタッフからの気づきや課題を聞き取り話し合い、プランに活かせるように、毎月評価を行い見直しも行っている	
			(外部評価) 家族からの要望や主治医の意見を盛り込むなど介護計画作成に生かしている。「職員として何が利用者に見えるのか？」常に自問自答しながら関わっている。月1回カンファレンスを行い、利用者の状態に応じたケアができていないか職員全員で検証しており、状態に変化がある場合などはその都度見直しているが、基本は6か月に1回見直すようにしており、家族には内容についてきちんと説明し了承を得ており感謝の言葉をもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも言葉や表情動作など日常の様子が解るような記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期発見につながる事も多い。入居者様の申し送りノートも利用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応できるように情報を収集し、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などを行い、他事業所の利用の取り組みも行った。また、事業所の役割として、認知症の勉強会などを地域の方々にも提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受入れ、地位との交流にも努めている。現在、踊り、ギター、ハーモニカ、傾聴ボランティア、などのボランティアさんが来て下さっている。また、移動販売や、地域の店などを利用し交流している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニック暖と併設されており、迅速に適切な医療が受けられる 体制が整っているため状態変化にも対応できている。また、専門 医や救急病院への受診も医療連携を結んでいるクリニック暖から の医療情報があることから、スムーズに対応できている。 (外部評価) 母体法人が医療機関で緊急時の対応も可能なため、利用者と家族 は安心して生活することができており、主治医として利用者一人 ひとりの顔を見ながら声かけをし診察している。眼科等他科受診 の時は、主治医の紹介状を持参し適切な医療を受けている。歯科 の往診もあり口腔ケアを取り入れ、利用者は週1回歯科衛生士の 指導を受けている。日頃からインフルエンザ等感染症予防にも心 がけており、手洗いやうがいの励行にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携を取っている事もあり、入 居者様も医師や看護師とも日頃から交流がある。日状の様子を観 ていただいていることから、小さな変化も伝えやすく、相談しや すい体制を作っていただいている。家族様からも安心だとの評 価を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関との話し合いの場には家族様と共にできるだ け職員も立ち会うようにしており情報提供できるようにしてい る。また、早期退院に向け医療連携を結んでいる医療機関に情報 提供できるように、また、事業所に戻ってからかかりつけ医との 連係が取れる様に、援助している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「重度化した場合における医療体制に係る指針」を作成し入居時 に入居者様や家族様に説明し見取りまで対応出来る事を説明させ て頂いている。また入居時点での希望を確認させて頂いており、 グループホームとしての機能や、協力機関や、地域、ボランティ アなどの機能も説明させて頂いている。 (外部評価) 看取りの指針が整備されており、指針をもとに職員間で十分話し 合っている。法人医師が24時間対応可能で、事業所に看護師も いるため心強い。看取り経験のある職員の感想は、日々不安は 募っていたが、医師と看護師の存在が大きく連携も取れ達成感 はあったようである。管理者をはじめ職員全員が日々勉強しなが ら、スキルアップに努めサービス向上につなげたいと考えてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 入居者様の急変時にはマニュアルを作成し、クリニック暖へ連絡をする事と成っている。また、その他の緊急時にもマニュアル作成し、緊急連絡網を作成している。また、クリニック暖より緊急時の対応、処置等指示を受けている。ノロの対応についての勉強会を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) それぞれにマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練の際には、地震や水害等の話合いや訓練も行っている。また、そのうちの1回は消防署にも立ち会って頂いている夜間想定消防避難訓練と救急蘇生法も年に1回は行うように計画し、消防避難訓練は運営推進会議とし、地域の方々や家族様、防災士さんも参加して下さっている。 (外部評価) 運営推進会議と同時に避難訓練を行っており、地元の消防団員も参加するなど地域との連携も取れている。夜間は各ユニット一人の職員の対応になるため、利用者全員の避難には不安を感じており、夜間時の対応について協議を進めたいと考えている。水や米、缶詰、レトルト食品など備蓄し賞味期限が過ぎないように留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限りおこなっている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっていただけるように、援助している。 (外部評価) 利用者を人生の大先輩として敬い、一人の人間として尊重するよう、管理者をはじめ職員全員が心がけている。利用者には自信を持ってもらい、残存能力を生かした生活をしてほしいと願っており、日々馴れ合いにならないよう声かけや呼び名等にも注意を払っている。居室に入る時には必ずノックや声かけをしたり、食後の口のまわりや着衣など、特に重度化の利用者には配慮するなど支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 長期入居者も多く、これまでの生活を支援する中で、希望を聞く、思いを窺い知る働きかけを行い、日常のコミュニケーションを通し可能な限り自己決定の声を引き出せるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床や就寝、休息などの入居者様の個々の生活のリズムが優先できるように工夫しながら支援している。休息や外出などの希望も職員やホーム側の事情を優先することのない様、出来るだけ希望に沿うように援助している。予定や日課を変更しなければならない時は、しっかり事情を説明させて頂き、出来るだけ理解していただけるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事等を取り入れる事によって身だしなみに気を付け、おしゃれしたい気持ちになるような機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事が一層楽しいものとなるように食べたいものを聞いたり、食材を見たり触れたりする機会を作っている。旬な野菜や、食材を取り入れ、調理の様子も見れる配置なので、音や匂いからも食べる意欲につながっている。個々の状態に合わせて可能な限り、食事の準備や配膳等も一緒に行っている。 (外部評価) ちらし寿しや赤飯、しょうゆ餅など利用者が懐かしく思うものに配慮し、嗜好や季節感を大切に考え、食事担当職員が献立を立て調理している。職員は利用者と同じメニューを食べており、利用者を見守り楽しそうに会話をしている。もやしの根切りやじゃが芋の皮むき、下膳、テーブル拭きなど利用者ができることをできる時に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分のチェック表を利用しながら、一日のトータル摂取量が分かるようにしている。また、食事の形体も状態に合わせ、刻みやミキサー、プリン状等形体を変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助させて頂きながら、口腔ケアを行っている。また、歯科医との関係で、必要な場合の往診や口腔ケアへ繋いで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態に合わせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬に頼らずに気持ち良く排泄できるように、食事や運動等にも工夫している。	
			(外部評価) お茶やヤクルト、ヨーグルト等食物繊維を多く含むものを心がけて摂取するなど、薬には頼らない方法でスムーズに排泄できるよう支援している。立ったり座ったり、またラジオ体操やボール風船バレーなど楽しみながら運動し排泄を促すなど、利用者が便秘にならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や、水分量、適度な運動等で、便秘にならない工夫を取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が、楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっただけのように、工夫し援助している。	
			(外部評価) 入浴は週3回を目安とし、利用者は入浴を面倒に思ったり「風邪をひいている」と言って拒むこともあるが、職員の上手な声かけなどの工夫により気持ち良くくつろいだ気分で入浴を楽しんでいる。時間帯や入浴時間、温度など利用者一人ひとりに合わせた支援のほか、バイタルチェックは必ず入浴前に行うなど安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け、個々に合わせ運動や散歩なども取り入れている。また、日中も好きな場所で、ゆっくり出来るように、椅子や、テーブルの配置を工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時にはご本人の分かり易く主治医からも説明いただいている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が同席させて頂き、情報提供を行い、また、説明を聞くようにしている。処方管理は、調剤薬局に任せているが、職員も変更等把握できるように、薬剤師さんの協力も得ながら、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などご本人や家族様などから伺い、趣味や得意な事などを生活の中に取り入れ、出来る事は継続できるように支援している。レクリエーションやクラブ活動として職員も一緒に楽しみながら行っている。外出の機会や各ユニットの交流、ボランティアの訪問等、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力を得ながら行っている。実家に帰ったり、お墓参りに帰ったりとそれぞれの希望に合わせて、援助している。日常の散歩や買い物なども取り入れている。 (外部評価) 一日中事業所で過ごすことがないよう散歩や花見、買い物など外出する機会を設けたり、重度の利用者は松山城などの景色が見える屋上に上がり気分転換を図っている。道の駅やスーパーへの買い物、児童館や福祉センター、繁多寺などにドライブするなど、家族の協力も得て外出支援ができており、利用者は外出を心から喜び楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際には、買い物の機会も作り、入居者様にお財布を持っていただきお金を使う機会を作っている。家族様と相談しながら、おこずかい程度を個人で管理しておられる方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様が十分に行えない部分は援助しながら電話や、手紙のやり取りも支援している。年賀状や季節に合わせて挨拶状なども援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間には季節の花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように配慮している。ベランダからは向かいの山が見え、日の出やお月見等には絶好の場所となっている。 (外部評価) ベランダからは美しい月を眺めることができ、窓辺では利用者が日向ぼっこできるようになっている。共用スペースにはソファが用意され、ゆっくりくつろぐことができる。床には物品を置かないよう配慮され、掃除は業者に委託し、事業所内はきれいで清潔感があり居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアは自由に行き来出来るようになっており、各部屋や全体にもつながっており、自由に行き来が出来る。また、ソファなどでは、気の合う入居者様と共に過ごす事が出来ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一人一人個室では、気に入ったように家具なども配置して頂き、落ち着ける場所となるように家族の写真や、思い出の写真を飾ったり、また、家具や日用品などはなじみの家具を持ち込んで頂くなどして、今までの生活から継続性のある暮らしが出来るように援助している。 (外部評価) 居室は、いつ誰が来てもいいようにきれいに掃除が行き届き整理整頓されており、ずっと居たい気持ちになる。家族との温かい会話が弾むようテーブルと椅子が配置されている。また、家具が倒れないような地震対策も家族の協力により施されており、安心して過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、表札、表示など利用してわかりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品の利用など安全に生活できるように援助している。また、家具の配置などにも配慮し、安全に生活が出来るように援助している。	